

原始・古代・中世部会 市内出土板碑の調査



板碑を写真撮影する専門員の様子

令和6年度下半期から、本格的に板碑^{いたび}の調査を開始しました。

板碑とは鎌倉時代から戦国時代に造られた供養塔で、板状に切り出した石に本尊や銘文などが刻まれ、墓地や街道沿いなどに建てられました。市内では、伝鎌倉街道沿いの恋ヶ窪廃寺跡や伝祥応寺跡などで集中的に発見されています。

旧市史では板碑が84点掲載されていましたが、今回約50点の追加調査を行いました。令和7年度下半期からは、市外で保管されている市内出土の板碑も調査を行っていく予定です。（木村 遊）

資料の情報をお持ちではないですか？

充実した市史を作るために、国分寺に関係のある資料や記憶・情報などを探しています。資料の閲覧、撮影、調査などにご協力いただける方、昔のお話を聞かせていただける方は、市史編さん室までご連絡ください。また、「これは資料かな？」と思った時もお連絡ください。



市民の方より寄贈していただいた写真

現代市制部会 国分寺市の宅地化の様子

当部会では、市制施行以降のまちの変化を探るべく、様々な資料を集めて分析しています。昨年度は市民協力員が中心となって、市役所にある宅地開発リストのデータ化作業を行い、それをもとに市内の宅地化の進展を分析しました。

東恋ヶ窪四丁目を例に、その成果をマッピングしたのが下の図です。この地域は1970年以前に宅地化が進んでいますが、その後も70年代、80年代とモザイク状に開発が進んでいった様子がわかります。

今後も多様な資料や情報から、まちの変化を描き出す作業を進めていきます。（宮川 展夫）



東恋ヶ窪四丁目の宅地開発の様子

News Letter

2025

11月30日

発行

Vol.03

国分寺市の昭和100年

Introduction

令和7年(2025)は、昭和が始まってからちょうど100年にあたります。

国分寺市域の町並みは、人口が大きく増加したことで、村から町、さらに市へと発展し続けてきました。

残された資料や刊行物などから、当時の様子を振り返ってみましょう。

■町になったころの住宅地

明治22年(1888)に戸倉新田外九ヶ村組合が合併し誕生した国分寺村は、昭和15年(1940)に国分寺町となりました。地図上で黒塗りにされている箇所が当時の宅地で、国分寺駅周辺に住宅地が集中している様子がうかがえます。

東京府北多摩郡国分寺町全略図1/9600 昭和15年6月作成
東京府北多摩郡国分寺町役場発行(中藤家文書)

■にぎわう国分寺駅



国分寺駅南口(市勢要覧 昭和41年)

歩行者天国が誕生
(市報 昭和45年10月15日号)

開設当初に北口のみであった国分寺駅は、昭和31年(1956)に南口が開設されました。北口の商店街では、交通量が多く、買い物客や歩行者の安全を確保することを目的として、昭和45年(1970)に歩行者天国が誕生しました。

■人口増加と都市化

チビッ子の遊び場に道路を開放
(市報 昭和45年8月15日号)公害特集 野川・年々清流を回復
(市報 昭和51年3月15日号)

市では昭和40年以降に、急激な人口増加による都市化が進みました。公園整備が追いつかず、道路を一時的に封鎖し、子どもの遊び場を確保するなどの対策が行われました。

道路舗装、下水道整備など急ピッチで進められましたが、開発により野川の汚染や騒音など新たな課題も浮上しました。

道路、配水整備急ピッチ
(市報 昭和45年12月15日号)

国分寺市史編さん News Letter 第3号 令和7年(2025)11月30日発行

編集・発行：国分寺市教育委員会市史編さん室

〒185-0034 東京都国分寺市光町1-46-8 ひかりプラザ5階 電話：042-571-7815

戦争の記憶と記録

戦後80年と
国分寺市

戦後80年を迎え、戦争を経験した方はもちろんのこと、戦後を知る世代も少なくなっています。

当時を生きた方の記憶や、文字で記されたもの、実際に使われていた日用品など、日々の営みに残った情報は未来のための大事な資料となります。市史編さん室では、様々な資料から情報を集め、市史を編んで行きます。

(木本 和志)

平和に向かって

「終戦記念市民のつどい」は、市民を対象に終戦記念行事として昭和47年(1972)に初めて実施されました。戦争と平和について考える契機とするため以降毎年開催され、昭和63年(1988)の第17回からは「平和記念行事」と名称を変えて現在まで実施されています。

昭和51年(1976)には、従軍者の遺品などを市民から募集し展示会を行いました。戦争体験の発表者を市報で募集したこともありました。



慰霊碑建立
(町報 昭和31年4月30日号)

戦没者の慰霊と平和への願い

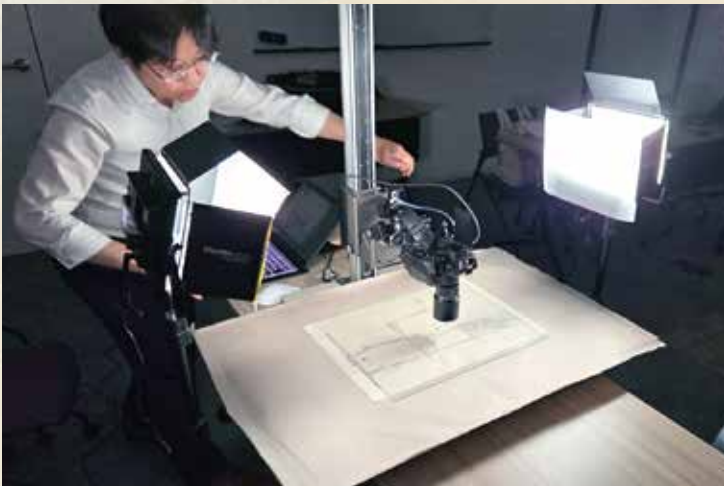


遺家族の皆様にお知らせ
(昭和24年4月カ、小柳寛家文書)

町(市)では、戦後間もない昭和24年(1949)頃に戦没者の遺族が中心となって、「国分寺町遺族会」が結成されました。遺族会では、慰霊祭などの催し物を行い、遺族同士の交流や団結を図りました。

また、昭和31年(1956)には戦没者を弔うため、慰霊碑建立協賛会と町とが共同で慰霊碑を建立しました。当初は第一中学校の校庭の横に建てられましたが、武蔵野線敷設工事に伴い西元町一丁目の国分寺公園に移され、現在に受け継がれています。

新たな資料の発見と整理



市史編さん事業がスタートした後、市内各地から今まで知られていなかった資料の情報が寄せられています。

お預かりした資料は、市民協力員の御協力のもとクリーニングや封筒詰めなど初期対応を行ったのち、詳しく調査を行います。新たな資料を未来へ伝えていくには、大切な整理作業です。



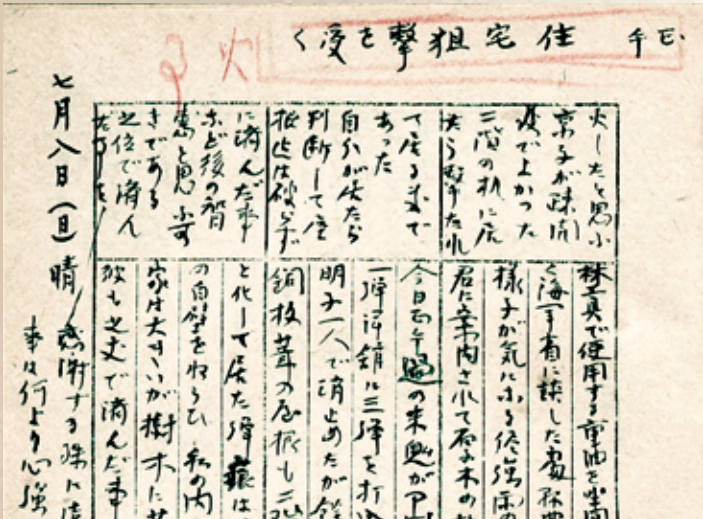
戦後三十年まだ残る傷あと 西恋ヶ窪で不発弾
(市報 昭和50年7月15日号)

空襲被害と戦後の爪痕

空襲の被害は、国分寺町も例外ではありませんでした。当時の住民の日記には、「国分寺町は中央線と平行に北側がずっと(焼夷弾を)落とされていて居て、畑の中にも時限爆弾が沢山落ちていて。(中略)内藤新田では四軒も焼けた」(昭和20年(1945)5月26日条「沖本至日記」)とあり、戦争の被害が確認できます。日記には空襲の被害が散見され、何度も被害があったことがうかがえます。

空襲を避けるため、防空壕も作られました。同年6月22日には「今朝、防空壕の土を二三斗(約580ℓ)掘上げる。中々骨が折れる(後略)」とあり、毎日掘り進め、有事の際に備えていたようです。作られた防空壕の数は定かではありませんが、各地に作られていたようです。

また、地中に埋まったままの不発弾は戦後に処理作業が行われました。埋没箇所は市民の目撃情報をもとに判明する場合もありました。



空襲で火事があった日の日記「住宅狙撃を受く火事」
(沖本至日記、昭和20年7月8日、沖本至家文書)

平和な未来を 8月15日は終戦記念日
(市報 昭和51年8月1日号)